



財団法人 がんの子供を守る会

2011年度事業報告書

2011年4月1日～2012年3月31日

CCAJ ANNUAL REPORT

Apr.01,2011～ Mar.31,2012

CONTENTS

	理事長あいさつ	1
	小児がんについて	2
	組織概要	4
	会の歴史	6
	収支決算報告	8
	2011年度の事業概況	
	① 研究助成事業	14
	② 療養援助事業	18
	③ 相談事業及び関連事業	20
	④ ゴールドリボン推進活動	26
	⑤ ボランティアコーディネート・ボランティア研修会	28
	⑥ 総合支援施設の運営事業	29
	⑦ 小児がん対策に関する意見交換会の開催	31
	⑧ 支部活動	32
	⑨ 小児がん児童・家族への慰問活動事業	35
	⑩ 小児がんの子どもたちの絵画展開催	36
	⑪ ソーシャルワーカーの研修事業	37
	⑫ その他の事業	38
	広報・募金活動	39
	庶務事項	40

【法人名の表記について】

※財団法人がんの子供を守る会は、2012年4月1日より「公益財団法人がんの子供を守る会」となりました。
2011年4月1日～2012年3月31日の事業報告書である本書内では一部を除き「財団法人がんの子供を守る会」と表記しています。

理事長あいさつ

当会は、小児がんで子どもを亡くした父親二人が共有した“小児がんを治る病気にしたい”、“自分たちと同じ苦しみを味わう家族の無い世にしたい”と云う思いを原点に、1968年に「財団法人がんの子供を守る会」として設立された、長い歴史を持つ小児がん親の会であります。創立44年目の本年4月、法改正に則り改めて内閣総理大臣認定を受け、「公益財団法人がんの子どもを守る会」として新しいスタートを切りました。



新たな出発に当たって、会の名称表記の一部「子供」を「子ども」に変更、制度の一部改正、諸規定の明確化等を行うと共に、これまでの「総会」を「年次大会」とし、幅広い支援者の方々にご参加いただく形に改めるなどの改編を行いました。更に、この機会にこれまで見過ごされて来た運営上の諸課題への取り組みを遅滞なく進め、公益財団法人として時代の要請に応えた持続的運営を実現するために、事務局体制を改革・強化致しましたことを報告させていただきます。

公益財団法人としての再出発後も、子どもにもがんがあるということの周知を図りつつ、小児がんの子どもを持つ家族の困難や悩みに対する専門のソーシャルワーカーによる相談事業と経済的支援事業、小児がん治療の研究助成事業、小児がん経験者やきょうだい達への支援事業及び小児がんを含む難病治療中の家族のための宿泊・支援施設の運営等々、当会の使命実現に向けた事業を引き続き推進して参ります。

旧法に則った財団法人としての最後の事業報告となる本書をご覧くださいとお分かりになる通り、低迷が続いております近年の経済環境の影響により、ここ数年厳しい財政状況が続いておりましたが、2011年度は東日本大震災という重大な事態発生の下で、当会の使命を全うすべく被災地の小児がん家族への緊急助成を実施するなどにより、大幅な赤字決算をせざるを得ない状況になっております。

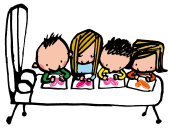
幸いにして今年度は、これまでのご支援の賜物の蓄積により、決算をすることが出来ました。今後は財政の改善無くしては事業の持続的展開はあり得ないことを理事・事務局一同肝に銘じつつ、2012年度の事業運営に取り組んで参る所存でございます。

皆様におかれましては、当会の使命へのご理解を頂き、公益財団法人としての今後の当会の事業をご理解頂き、引き続きのご支援ご協力を賜りますよう改めてお願い申し上げます。

2012年6月吉日

公益財団法人 **がんの子どもを守る会**
(旧：財団法人 **がんの子供を守る会**)

理事長 **山下 公輔**



小児がんについて

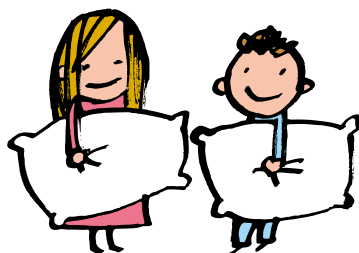
小児がんとは

子どもにおこる悪性腫瘍（がんや肉腫）を総称して「小児がん」と言います。

大人と子どものがんの違い

子どもでは大人に多い胃がん、肺がんなどはほとんどなく、白血病、悪性リンパ腫、神経芽腫、脳腫瘍などの「肉腫」が多くみられます。大人に多い「がん」がからだの比較的表面的の見やすいところから発生するのに比べて、「肉腫」はからだの深いところからおこるために早期発見が難しいとも言えます。

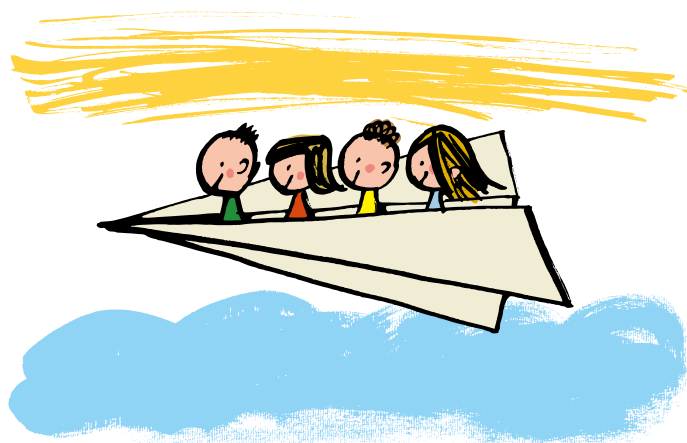
	小児がん	がん全体
多い疾患	<ul style="list-style-type: none">・白血病・悪性リンパ腫・脳腫瘍・神経芽腫・骨腫瘍 からだの深いところから発生するものが多い	<ul style="list-style-type: none">・胃がん・肺がん・大腸がん・肝臓がん・乳がん からだの比較的表面的の見やすいところから発生するものが多い
年間発症数（推計）	約2,000～2,500人	約70万人



小児がんの治療

小児がんの治療は外科的治療、放射線治療に化学療法を加えた集学的治療によって目覚ましい進歩を遂げ、現在では病気によっては約7～8割の子どもたちが長期生存できるようになっています。とはいえ小児がんは子どもの病死順位の第1位を占めており、年間約550人の幼い命が失われていることも忘れてはなりません。

小児がんは治療中だけでなく、治療を終えた後にも患児家族には様々な困難があります。病気の理解や治療の選択など医療面はもちろんのこと、就学・進学・就労・結婚・出産など成長に応じて周囲からのサポートが必要になることもあります。





組織概要

※2012年3月31日現在

名 称 財団法人がんと子供を守る会

設 立 1968年10月31日

設 立 趣 旨 当会は、1968年10月に小児がんで子どもを亡くした親たちによって、小児がんが治る病気になってほしい、また小児がんの子どもを持つ親を支援しようという趣旨のもとに設立されました。

主 務 官 庁 厚生労働省

主たる事務所 住所：〒111-0053 東京都台東区浅草橋1-3-12
TEL：03-5825-6311(代表) FAX：03-5825-6316

従たる事務所 **亀戸** 住所：〒136-0071 東京都江東区亀戸6-24-4
TEL：03-3638-6551(代表) FAX：03-3638-6513
大阪 住所：〒541-0057 大阪府大阪市中央区北久宝寺町2-3-1
TEL：06-6263-1333(代表) FAX：06-6263-2229

目 的 小児がんの脅威に対抗するため、小児がんに関して、知識の普及及び相談、調査及び研究並びにその奨励及び助成、療養に関する援助その他の事業を行い、もって、社会福祉および国民保健の向上に寄与する。

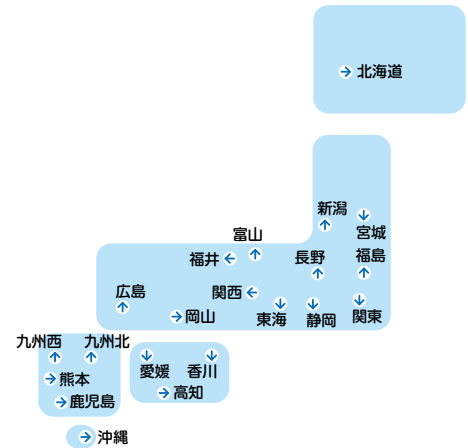
主な事業内容

1. 小児がん治療に関する研究助成事業
2. 小児がん患児家族のための療養援助事業
3. ソーシャルワーカー、医師による相談事業
4. 総合支援施設「アフラックペアレンツハウス」、宿泊施設の運営
5. 小児がんに関する広報・啓発活動
6. 地域活動

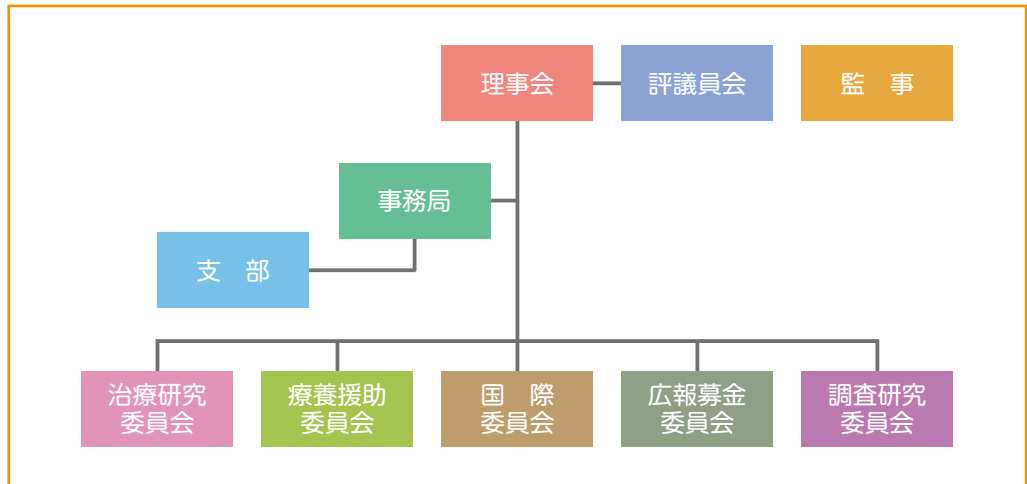
組 織 理事長 山下公輔
理事11名、監事2名
評議員13名
職員24名
普通会员 2,430名 賛助会員 514(法人43 個人471)名

支 部

当会には全国に21の支部があります。各地域の会員ボランティアにより組織され、地域の医療関係者等の協力を得ながら、各地のニーズにあわせた相談会や交流会などを開催し、患児家族と医療関係者のコミュニケーションを深めるとともに、患児家族のよりよい療養生活の実現を目指して活動しています。



組 織 図



役 員 名 簿

理 事 長

山下 公輔 プライスウォーターハウスコーパス株式会社 シニアアドバイザー

副理事長

黒田 英三 大阪大学 名誉教授
 近藤 博子 元当会ソーシャルワーカー
 細谷 亮太 聖路加国際病院 副院長

理 事

土手 多喜子 元実践女子学園 教諭
 橋都 浩平 東京西徳洲会病院 顧問
 松井 秀文 NPO法人 ゴールドリボン・ネットワーク 理事長
 河 敬世 大阪府赤十字血液センター 所長
 小俣 智子 武蔵野大学現代社会学部福祉学科専任講師
 張 光陽 当会九州北支部幹事
 深澤 重幸 コトブキシーティング株式会社 会長
 中村 信夫 当会事務局長

監 事

高橋 和子 当会九州北支部代表幹事
 三川 勝夫 三川会計事務所

評 議 員

平野 朋美 埼玉県立小児医療センター ソーシャルワーカー
 西田 知佳子 聖路加国際病院 ソーシャルワーカー
 十亀 祥晃 当会静岡支部代表幹事
 鈴木 中人 当会東海支部代表幹事
 加藤 仁義 当会関西支部代表幹事
 岡 敏明 札幌徳洲会病院 小児科
 幸島 静枝 当会会員
 押野 カズミ 当会関東支部代表幹事
 荒井 順子 当会会員
 平澤 一郎 小児がん経験者
 稲田 浩子 久留米大学病院小児科
 池田 春子 当会会員
 中村 美智子 小児がん経験者



会の歴史

1962	設立趣意書作成
1966	NHKカメラリポートで紹介
1967	「がんの子供を助ける親の会」準備会 新薬（メソトレキセート、ビンクリスチン、アクチノマイシンD）使用について陳情
1968	2.25 「親の会」設立総会 10.31 「財団法人 がんの子供を守る会」として設立許可 11.18 治療研究委員会発足 12.27 緊急医療費援助開始、第1号患者2名に援助金
1969	小児がん全国登録開始
1970	関西支部設立総会 小児がん公費負担について厚生大臣に陳情
1971	小児がん治療費の公費負担が実現
1972	九州支部設立総会 北海道支部設立総会 療養費援助を一般と特別に区分し援助開始。特別療養費審査会発足
1973	映画企画委員会発足 専任ソーシャルワーカー設置
1974	48年度小児がん映画完成公開 静岡支部設立総会 全国登録委員会発足
1975	愛知支部設立総会 49年度小児がん映画完成公開 埼玉支部設立総会 パンフレット「こどものがん」刊行
1976	特定公益増進法人の認定
1978	当会に嘱託医を設置 創立10周年記念講演と映画の会
1979	長野支部設立総会 創立10周年記念・国際児童年記念小児がん国際シンポジウム
1981	新潟支部設立総会
1984	日本小児がん研究会発足
1985	第1回日本小児がん研究会（東京）（平成3年以降「日本小児がん学会」）
1986	竹中相談役・顧問に藍綏褒章
1989	創立20周年記念・第2回小児がん国際シンポジウム
1991	小冊子「がんとたたかう子とともに」刊行 宮城支部設立総会
1993	愛媛支部設立総会 小児がん経験者の会「フェロー・トゥモロー（F.T）」結成

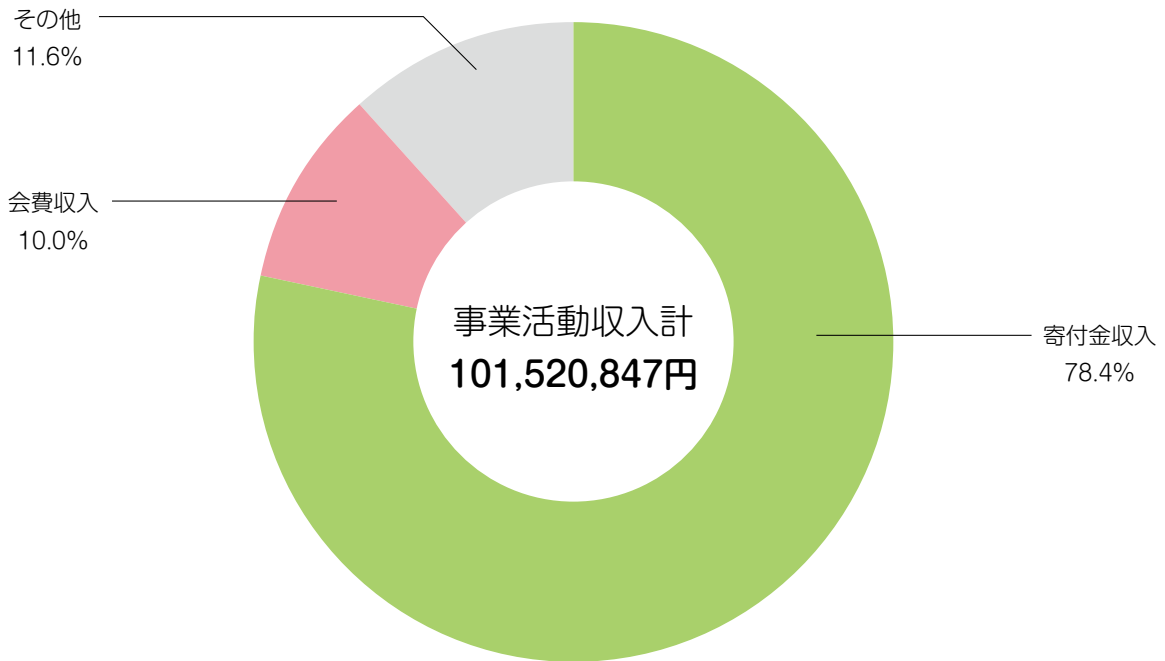
1994	小冊子「子どものがん」、疾病別リーフレット刊行
1995	宿泊施設「あかつきハウス」開設 岡山支部設立総会
1996	東京支部HOPE設立総会 学習ボランティア研修会開始（モデル事業）
1997	国際小児がん親の会連盟（ICCCPO）加入
1998	創立30周年記念 第30回SIOP国際小児がん学会親の会会議
1999	九州支部、北・西・南の3支部に分割 清瀬小児病院の敷地内にある「たけのこハウス」、東京都中央区にある「あかしハウス」を東京都衛生局より委託（2002年度まで受託）
2000	「小児がん患児とその家族の支援に関するガイドライン」刊行 岩田理事長に藍綬褒章
2001	「アフラックペアレンツハウス亀戸」が完成、事務所移転
2002	「がんの子どもの教育支援に関するガイドライン」刊行 愛知支部が東海支部となる 広島支部設立総会 「病気の子どもの気持ち～小児がん経験者のアンケートから～」刊行
2003	九州南支部が熊本支部となる 鹿児島支部設立総会 第1回小児がん経験者の会リーダー会議 埼玉支部と東京支部HOPEが合併 関東支部となる
2004	福井支部設立総会 香川支部設立総会 沖縄支部設立総会 「アフラックペアレンツハウス浅草橋」が完成、亀戸より事務所移転
2006	小児がん経験者の支援と社会への啓発を目的としたゴールドリボン基金を設立 「小児がん経験者のためのガイドライン～よりよい生活をめざして～」刊行
2007	ゴールドリボンウォーキング2007開催（東京） 富山支部設立総会
2008	創立40周年記念事業 がんの子どもと家族を支援する公開シンポジウム（千葉） 第1回小児がん経験者自立支援助成金
2009	「アフラックペアレンツハウス大阪」が完成 高知支部設立総会
2010	「この子のためにできること 緩和ケアのガイドライン」刊行 福島支部設立総会
2011	東日本大震災緊急療養援助実施
2012	公益財団法人移行認定



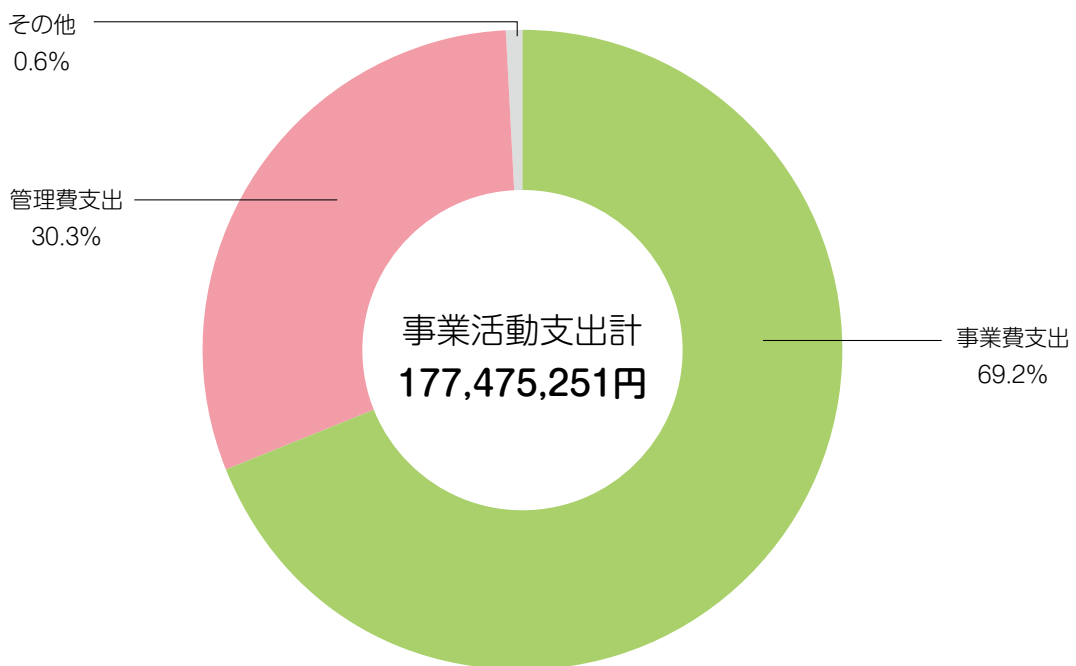
収支決算報告

概要（一般会計事業活動収支の部）

収入



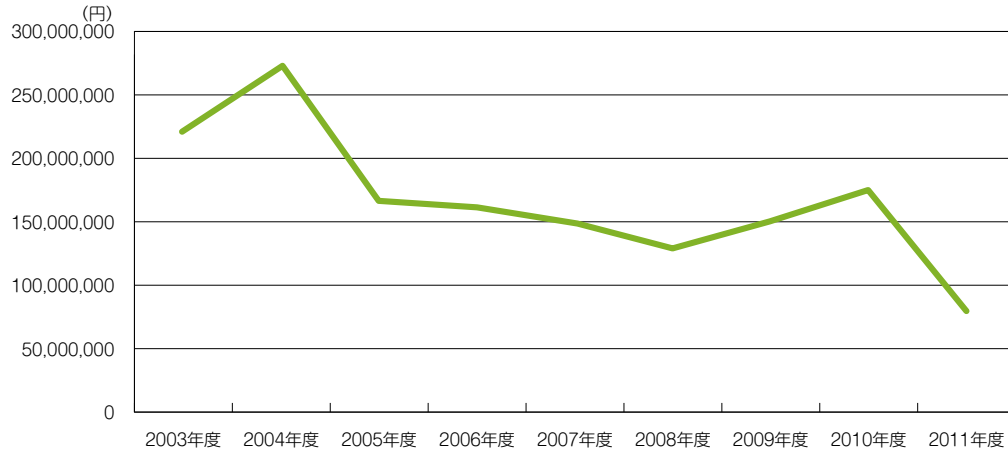
支出



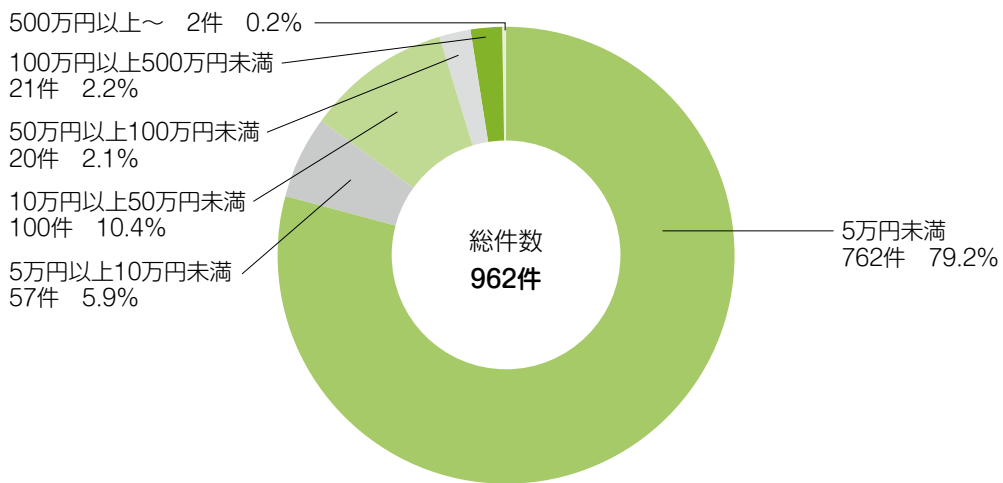


寄付金収入（一般会計のみ）

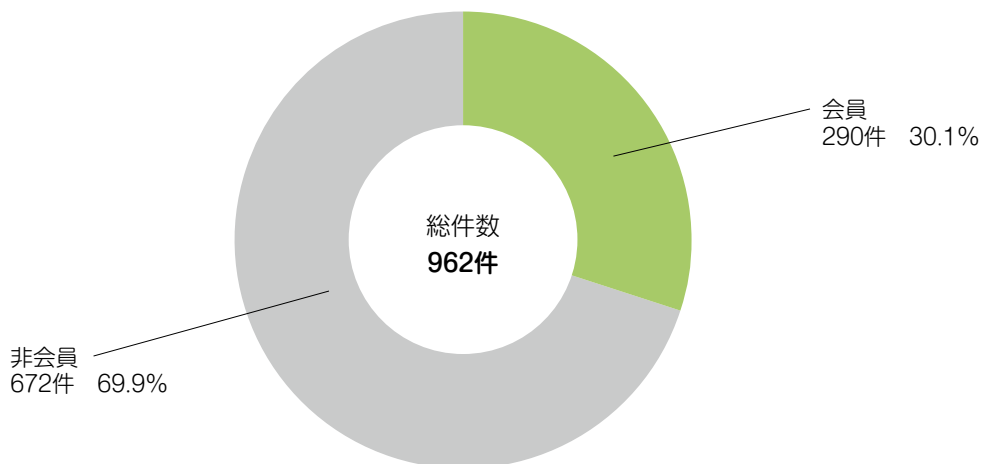
年次推移



寄付の件数（金額帯別割合）



寄付の件数（会員非会員）



一般会計

I 事業活動収支の部

科目	決算額(円)
1. 事業活動収入	
財産運用収入	2,132,578
信託預金利息収入	0
普通預金利息収入	24,389
定期預金利息収入	2,108,189
寄付金収入	79,552,031
特定寄付金	6,159,570
一般寄付金	59,382,461
指定寄付金	14,010,000
会費収入	10,164,000
普通会員会費収入	5,184,000
賛助会員会費収入	4,980,000
受託料収入	6,340,000
学会業務受託料収入	5,000,000
調査研究受託料収入	1,340,000
利用料収入	544,000
施設利用料収入	544,000
雑収入	2,788,238
雑収入	2,788,238
他会計からの繰入金収入	0
事業活動収入計	101,520,847
2. 事業活動支出	
事業費支出	122,748,991
人件費支出	28,827,311
給与支出	25,886,343
法定福利費支出	2,779,268
福利厚生費支出	26,400
退職給付支出	135,300
助成費支出	62,215,000
療養助成費支出	36,780,000
セミナー助成費支出	285,000
治療研究助成支出	21,150,000
調査研究助成費支出	4,000,000
活動費支出	31,706,680
会議費支出	259,052
旅費交通費支出	8,028,515
通信運搬費支出	1,917,147
消耗品費支出	24,091
印刷製本費支出	126,525
保険料支出	17,574
諸謝金支出	1,436,632
業務委託費支出	1,155,000
広報費支出	4,740,703
支援費支出	2,624,570
図書資料費支出	79,385
宿泊施設運営費支出	3,948,364
支部活動費支出	4,304,900
事業協力費支出	620,000
会場費支出	854,700
雑費支出	1,569,522
管理費支出	53,744,848
人件費支出	36,195,849
給与支出	31,480,143
法定福利費支出	4,452,590

福利厚生費支出	263,116
活動費支出	17,548,999
会議費支出	134,338
旅費交通費支出	2,182,090
通信運搬費支出	2,326,311
消耗品費支出	804,054
修繕費支出	0
印刷製本費支出	2,782,585
図書資料費支出	51,700
保守料支出	624,960
リース料支出	2,104,895
支払報酬支出	2,933,140
租税公課支出	78,900
消耗什器備品費	1,811,880
雑費支出	1,714,146
他会計への繰入金支出	981,412
事業活動支出計	177,475,251
事業活動収支差額	△ 75,954,404

II 投資活動収支の部

科目	決算額(円)
1. 投資活動収入	
特定預金取崩収入	68,135,300
特定預金取崩収入	135,300
別途積立金取崩収入	68,000,000
投資活動収入計	68,135,300
2. 投資活動支出	
特定預金支出	5,682,400
特定預金支出	5,682,400
固定資産取得支出	5,006,925
什器備品取得支出	5,006,925
投資活動支出計	10,689,325
投資活動収支差額	57,445,975

III 財務活動収支の部

科目	決算額(円)
1. 財務活動収入	
財務活動収入計	0
2. 財務活動支出	
財務活動支出計	0
財務活動収支差額	0

当期収支差額	△ 18,508,429
前期繰越収支差額	31,489,409
次期繰越収支差額	12,980,980



特別会計 アフラックペアレンツハウス

I 事業活動収支の部

科目	決算額(円)
1. 事業活動収入	
財産運用収入	10,577
普通預金利息収入	10,577
寄付金収入	115,411,803
指定寄付金	115,411,803
利用料収入	8,085,700
施設利用料収入	7,247,500
リネン利用料収入	838,200
雑収入	2,104
雑収入	2,104
事業活動収入計	123,510,184
2. 事業活動支出	
事業費支出	61,425,789
人件費支出	22,627,304
給与支出	18,545,897
法定福利費支出	4,019,244
福利厚生費支出	62,163
活動費支出	38,798,485
旅費交通費支出	373,070
通信運搬費支出	53,882
消耗品費支出	1,198,490
業務委託費支出	35,943,653
広報費支出	0
図書資料費支出	313,280
保健衛生費支出	550,900
リネン貸借料支出	344,610
雑費支出	20,600
管理費支出	66,956,953
人件費支出	13,750,760
給与支出	12,662,018
法定福利費支出	1,070,592
福利厚生費支出	18,150
活動費支出	53,206,193
会議費支出	13,657
旅費交通費支出	325,860
通信運搬費支出	2,715,861
消耗品費支出	58,708
修繕費支出	1,381,118
印刷製本費支出	358,610
光熱水料費支出	10,834,913
保険料支出	168,930
業務委託費支出	548,100
図書資料費支出	20,805
衛生管理費支出	3,468,123
保守料支出	13,316,557
リース料支出	2,742,413
支払報酬支出	92,400
租税公課支出	15,450,250
消耗什器備品費	119,111
植栽管理費支出	914,130
雑費支出	676,647
事業活動支出計	128,382,742
事業活動収支差額	△ 4,872,558

II 投資活動収支の部

科目	決算額(円)
1. 投資活動収入	
特定預金取崩収入	30,000,000
ペアレンツハウス運営積立資産取崩収入	30,000,000
投資活動収入計	30,000,000
2. 投資活動支出	
特定預金支出	6,000,000
修繕積立預金積立支出	6,000,000
投資活動支出計	6,000,000
投資活動収支差額	24,000,000

III 財務活動収支の部

科目	決算額(円)
1. 財務活動収入	
財務活動収入計	0
2. 財務活動支出	
財務活動支出計	0
財務活動収支差額	0

当期収支差額	19,127,442
前期繰越収支差額	817,706
次期繰越収支差額	19,945,148

特別会計 ゴールドリボン基金

I 事業活動収支の部

科目	決算額(円)
1.事業活動収入	
財産運用収入	2,963
普通預金利息収入	2,963
寄付金収入	14,072,983
指定寄付金収入	14,072,983
雑収入	0
雑収入	0
事業活動収入計	14,075,946
2.事業活動支出	
事業費支出	16,450,730
人件費支出	7,394,570
給与支出	6,472,267
法定福利費支出	922,303
助成費支出	6,500,000
自立支援助成費支出	1,500,000
治療研究助成費支出	5,000,000
活動費支出	2,556,160
会議費支出	905
旅費交通費支出	990,000
通信運搬費支出	16,505
消耗品費支出	0
印刷製本費支出	0
広報費支出	0
支援費支出	238,000
ゴールドリボン制作費支出	1,169,805
雑費支出	140,945
事業活動支出計	16,450,730
事業活動収支差額	△2,374,784

II 投資活動収支の部

科目	決算額(円)
1.投資活動収入	
投資活動収入計	0
2.投資活動支出	
投資活動支出計	0
投資活動収支差額	0

III 財務活動収支の部

科目	決算額(円)
1.財務活動収入	
財務活動収入計	0
2.財務活動支出	
財務活動支出計	0
財務活動収支差額	0

当期収支差額	△2,374,784
前期繰越収支差額	38,614,220
次期繰越収支差額	36,239,436

特別会計 小児がん児童・家族への慰問活動事業

I 事業活動収支の部

科目	決算額(円)
1.事業活動収入	
補助金等収入	3,720,000
助成金収入	3,720,000
雑収入	353
雑収入	353
他会計からの繰入金収入	981,412
事業活動収入計	4,701,765
2.事業活動支出	
事業費支出	4,701,765
活動費支出	4,701,765
旅費交通費支出	758,260
通信運搬費支出	9,040
事業協力費支出	3,775,000
雑費支出	159,465
事業活動支出計	4,701,765
事業活動収支差額	0

II 投資活動収支の部

科目	決算額(円)
1.投資活動収入	
投資活動収入計	0
2.投資活動支出	
投資活動支出計	0
投資活動収支差額	0

III 財務活動収支の部

科目	決算額(円)
1.財務活動収入	
財務活動収入計	0
2.財務活動支出	
財務活動支出計	0
財務活動収支差額	0

当期収支差額	0
前期繰越収支差額	0
次期繰越収支差額	0


特別会計 メイスン財団小児がん骨髄移植基金

I 事業活動収支の部

科目	決算額(円)
1. 事業活動収入	
補助金等収入	5,000,000
助成金収入	5,000,000
雑収入	535
雑収入	535
事業活動収入計	5,000,535
2. 事業活動支出	
事業費支出	3,360,000
助成費支出	3,360,000
療養助成費支出	3,360,000
事業活動支出計	3,360,000
事業活動収支差額	1,640,535

II 投資活動収支の部

科目	決算額(円)
1. 投資活動収入	
投資活動収入計	0
2. 投資活動支出	
投資活動支出計	0
投資活動収支差額	0

III 財務活動収支の部

科目	決算額(円)
1. 財務活動収入	
財務活動収入計	0
2. 財務活動支出	
財務活動支出計	0
財務活動収支差額	0

当期収支差額	1,640,535
前期繰越収支差額	200,512
次期繰越収支差額	1,841,047

特別会計 三重ファミリールーム

I 事業活動収支の部

科目	決算額(円)
1. 事業活動収入	
財産運用収入	2,276
普通預金利息収入	2,276
寄付金収入	1,870,000
指定寄付金	1,870,000
利用料収入	254,000
施設利用料収入	254,000
事業活動収入計	2,126,276
2. 事業活動支出	
事業費支出	970,794
活動費支出	970,794
会議費支出	200,000
旅費交通費支出	61,520
支援費支出	609,274
保健衛生費支出	100,000
管理費支出	1,627,974
活動費支出	1,627,974
消耗品費支出	30,011
修繕費支出	10,105
光熱水量費支出	382,184
保険料支出	0
業務委託費支出	52,760
保守料支出	125,075
消耗什器備品費支出	136,920
雑費支出	45,255
借地料	845,664
事業活動支出計	2,598,768
事業活動収支差額	△472,492

II 投資活動収支の部

科目	決算額(円)
1. 投資活動収入	
投資活動収入計	0
2. 投資活動支出	
投資活動支出計	0
投資活動収支差額	0

III 財務活動収支の部

科目	決算額(円)
1. 財務活動収入	
財務活動収入計	0
2. 財務活動支出	
財務活動支出計	0
財務活動収支差額	0

当期収支差額	△472,492
前期繰越収支差額	15,651,814
次期繰越収支差額	15,179,322



2011年度 (2011年4月1日～2012年3月31日) の事業概況

1 研究助成事業

(1) 治療研究助成

がんの子供を守る会では、小児がんが不治の病といわれていた1968年に治療研究委員会を発足させ、今日まで「小児がんを治る病気にしてほしい」という親の悲願を一日も早く達成させるため、小児がんの治療上有効な研究に対して助成を行っています。

小児がんのおよそ7～8割で治癒が見込めるようになった現在も、さらなる医療の水準および患儿家族の生活の質の向上はもちろんのこと、治療成績の向上とともに増加している小児がん経験者およびの治療後の身体的・精神的影響などに関する研究に対しても、2006年度に設立されたゴールドリボン基金により助成を行っています。

本年度は、公募を行ったところ43件の応募があり、治療研究委員会（2011年2月25日開催）及び理事会（2011年3月26日開催）にて審議した結果、下記の通り23件に助成しました。

■助成額

一般会計	15件	1,150万円
ゴールドリボン基金（※印）	8件	500万円

①小児がんに対する新治療法開発に関する研究（機能温存療法等を含む）

研究課題	代表研究者	助成金額
血清診断を用いた、神経芽腫早期例に対する無治療経過観察の確立	家原 知子 京都府立医科大学 小児科学教室	100万円
モデルマウスを用いた、神経芽腫tumor-initiating cell関連因子の同定	岸田 聡 名古屋大学大学院医学系研究科 生化学講座分子生物学	50万円
神経芽腫におけるHedgehog signal解析と新規分子標的治療の開発	宗崎 良太 九州大学大学院医学研究院 小児外科学分野	90万円
進行性神経芽腫に対するキメラ抗原受容体を用いた遺伝子改変T細胞療法	中沢 洋三 信州大学医学部附属病院小児医学講座	90万円
WT1ペプチドワクチンによる再発抑制効果を期待した小児悪性骨・軟部腫瘍対象多施設共同臨床試験	橋井 佳子 大阪大学大学院医学系研究科 内科系臨床医学専攻情報統合医学小児科	90万円
小児悪性脳腫瘍に対する新規抗体医薬の開発とその臨床応用	加藤 幸成 山形大学医学部 分子腫瘍マーカー研究チーム	80万円
乳児白血病に対する分子標的療法の開発のための基盤研究	安永 晋一郎 広島大学原爆放射線医学科学研究所放射線災害 医療研究センター幹細胞機能学研究分野	50万円
がんの子供の将来の妊孕性を守るための基礎研究—bFGF徐放化ゼラチンハイドロゲルによる凍結融解卵巣移植片への血管新生	木村 正 大阪大学大学院医学系研究科産科学婦人科学講座	50万円



②小児がんの標準的治療法の確立に関する研究

研究課題	代表研究者	助成金額
小児腎腫瘍グループスタディにおける難治性腎腫瘍に対する標準的治療法の確立	越永 従道 日本大学医学部小児外科	90万円
神経芽腫におけるALK遺伝子の臨床的意義の検討と新規分子診断法の確立	滝田 順子 東京大学医学部附属病院無菌治療部	50万円
小児急性白血病・リンパ腫患児のQOLアンケート調査	石田 也寸志 聖路加国際病院小児科 兼) 聖ルカ・ライフサイエンス研究所臨床疫学センター臨床疫学センター	90万円
小児急性リンパ性白血病の標準的治療法の確立に関する研究	渡辺 新 中通総合病院小児科学	100万円
小児髄芽腫およびAT/RTを対象とした治療開発	原 純一 大阪市立総合医療センター小児血液腫瘍科	90万円
小児固形腫瘍の生物学的特異性の解明と新たな病理組織分類アトラス作成	田中 祐吉 神奈川県立こども医療センター病理科	80万円

③小児がんのトータルサポートに関する研究（精神的サポート、就学・就職支援、家族支援、遺伝相談、合併症対策支援、宿泊施設等）

研究課題	代表研究者	助成金額	
小児がん家族支援に役立つ家族機能評価	齋藤 正博 順天堂大学小児科学	50万円	※
小児がん経験者の認知機能晩期合併症のアセスメントと支援に関する研究	吉野 美緒 日本医科大学付属病院小児科学	50万円	※
小児がん経験者の意思決定の現状と課題について	古谷 佳由理 筑波大学看護科学専攻実践看護学領域	70万円	※
小児がん経験者の潜在性甲状腺機能低下症の実態と治療介入に関する研究	佐野 伸一郎 浜松医科大学医学部附属病院 小児科学教室	70万円	※
小児がん患者の治療経過における倦怠感の特徴：睡眠・活動量との関連に関する縦断的研究	中尾 秀子 東京医科歯科大学大学院 保健衛生学研究科 国際看護開発学	50万円	※
放射線治療から小児の歯を保護するー口腔組織を放射線治療合併症から保護する装置	金沢 英恵 国立成育医療研究センター 外科系専門診療部 歯科	80万円	※
白血病化学療法中の日常生活QOL向上に資するツール開発	山口（中上）悦子 大阪市立大学医学部附属病院 安全管理対策室	50万円	※
小児がんへ有効な施策提言のための資料収集とアウトカム指標の抽出	檜山 英三 広島大学 自然科学研究支援開発センター	80万円	※

④その他

研究課題	代表研究者	助成金額
大阪府AYA (adolescents and young adults) 世代におけるがん診療内容共有システム構築、およびAYA 世代のがん実態把握	井上 雅美 大阪府立母子保健総合医療センター 血液・腫瘍科	50万円

また、小児がんの治療上有効と位置づける研究グループに対しては、治療研究委員会及び理事会において審議のうえ、指定寄付金を募り助成を行っています。本年度は、下記の通り5件に対し助成しました。

研究課題	代表研究者	助成金額
TCCSGに於ける小児の急性白血病を中心とした研究	東京小児がん研究グループ (TCCSG) 代表 小原 明	180.5万円
インターグループによる小児白血病の研究	小児白血病研究会 (JACLS) 代表 小田 慈	57万円
小児がんのグループ研究 (九州山口地区における小児がん治療成績の向上と治療法の均てん化)	九州・山口小児がん研究グループ (KYCCSG) 代表 河野 嘉文	95万円
多施設共同研究による乳児急性リンパ性白血病の治療法の確立	石井 榮一 愛媛大学大学院医学系研究科小児医学	142.5万円
日本小児白血病リンパ腫研究グループにおける臨床研究の基盤整備に関する研究	堀部 敬三 独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター	190万円
合 計		665万円

●治療研究委員会 (所属は2012年3月31日現在)

河 敬世	大阪府赤十字血液センター 所長
別所 文雄	杏林大学医学部 小児科
水谷 修紀	東京医科歯科大学大学院・医歯学総合研究科 小児科
福澤 正洋	大阪大学大学院医学系研究科小児外科学講座 小児外科
細谷 亮太	聖路加国際病院 副院長
杉本 徹	済生会滋賀県病院 院長
田尻 達郎	京都府立医科大学附属病院 小児外科
黒田 達夫	慶応義塾大学医学部 小児外科
橋都 浩平	東京西徳洲会病院 顧問
野崎 美和子	獨協医科大学越谷病院 放射線科
逸見 仁道	東邦大学医学部 分子生物学研究室

(2) 研究セミナー等助成

①小児がん研究奨励賞

小児がん研究奨励賞は小児がんに関する学術の進歩と知識の普及により、小児がん治療成績の向上を図ることを目的として1992年に創設され、優秀な研究に対して賞状ならびに副賞の贈呈を行っています。特定非営利活動法人日本小児がん学会雑誌「小児がん」の中から、1年間で掲載された優秀論文を審査し、受賞者を決定します。

■受賞者

論文名	筆頭著者
小児腎腫瘍改訂分類に基づく腎芽腫の組織学的再検討 —後腎芽細胞腫優位型腎芽腫は予後良好か？— 「小児がん」第47巻3号	青葉 剛史 聖マリアンナ医科大学小児外科
ヌードマウス移植ヒト神経芽腫および横紋筋肉腫に対するイリノテカン (CPT-11) の抗腫瘍作用 「小児がん」第47巻1号	金子 節子 筑波大学大学院総合人間科学研究科 小児外科
小児がん患児に関する復学支援の取り組み—愛知県における実態調査— 「小児がん」第47巻1号	中垣 紀子 日本赤十字豊田看護大学



②日本小児がん学会事務局

小児がんが不治の病であった1970年以降、医師との協働の必要性から日本小児がん学会（当初は小児がん研究会）を金銭的また人的支援をするために事務局を受託してきました。本年度も引き続き事務局を受託し、学会運営のサポートを推進しました。

(3) 調査研究助成事業

①海外留学助成

小児がん領域における若手オンコロジストの育成並びに当領域における研究のより一層の向上・発展を図ることを目的とし、海外の大学あるいは研究施設に留学し小児がん領域における基礎・臨床の研究を行う臨床研究者に対して奨学助成を行う「Pediatric Oncology Research Fellowship」(PORF 海外留学助成制度)を2001年度から実施しています。

本年度も西日本小児がんセミナー、中外製薬株式会社の協力を得て、公募を行い下記の通り助成しました。

■本年度助成対象者

琉球大学医学部附属病院 病態解析医科学講座育成医学分野 浜田 聡

研究テーマ：慢性GVHDにおけるNKG2D+CD4+T細胞動態との関連性

②特定非営利活動法人日本小児がん学会の調査研究活動等に関する支援

■小児がん全数把握登録事業^(*)への助成

日本における小児がんの発生数を把握する事業を展開している特定非営利活動法人日本小児がん学会に対して、登録事業の支援をするために助成金を支出しています。本年度は240万円を助成しました。

(*) 小児がん全数把握登録事業—小児がんの発症が年間何人か、男女の発生割合はどうか、発症しやすい年齢はあるかなど統計によって得られた情報を医学研究の基礎とすること及び保健医療政策の決定に寄与することを目的とする事業。

2 療養援助事業

(1) 療養助成

療養援助事業は、患児が等しく必要とする医療が受けられること、療養に伴う経済的負担が軽減されることを目的としています。療養助成には、「一般療養助成」と「特別療養助成」の2種類があります。また、本年度は東日本大震災を受け「緊急療養費援助」を行いました。それぞれ助成対象者、助成対象事項は下記のとおりです。

■緊急療養費援助

- 対 象 者**
- 対象者の子どもを扶養するもの（親、きょうだい、その他）が平成23年3月11日の東日本大震災時にその地域に住んでいたこと。
 - 東日本震災の地域とは、災害救助法適用地域とする（但し、東京都（帰宅困難者対応）を除く）。
 - 対象は、小児がんを18歳未満で発症し、申請時20歳未満で、平成23年3月11日から9月11日の期間中に抗腫瘍治療中もしくは、治療を終えて概ね1年未満であること。
 - 申請期間は、平成23年5月1日から平成24年2月末日までとする。
- 助 成 金 額** 10万円（被災見舞金5万円＋一般療養援助金5万円。一人一回限りの助成）

■一般療養助成

- 対 象 者**
- 18歳未満で小児がんを発症し、申請時20歳未満の抗腫瘍治療を受けている患児の家族
 - 扶養者（両親共働きの場合は二人の収入）の前年の総収入が400万円以下の方
- 助成対象事項** ■療養のために必要な諸経費全般
- 助 成 金 額** 5万円（一人一回限りの助成）

■特別療養助成

- 対 象 者** 18歳未満で小児がんを発症し、申請時20歳未満の抗腫瘍治療を受けている患児の家族
- 助成対象事項** ■療養のために必要な諸経費
- ・入院中の患児の看護・介護のために必要な付添費
 - ・病院近くに滞在することが必要なときの宿泊施設等の滞在費
 - ・病院と自宅が片道おおむね150km以上離れている場合の交通費
 - ・患児の特殊装具やカツラ作成のためにかかった経費
 - ・闘病に伴って必要となったきょうだい（未就学年齢）の保育料
 - ・造血幹細胞移植など、主治医が患児の治療上必要と認めたものに対してかかった経費（但し、健康保険の対象とならない薬剤や代替療法等にかかる経費は原則対象外）
- 助成対象期間** 申請時を含む3ヶ月間
- 助 成 金 額** 20万円以内（一疾病について一回限り）
- 審 査** 療養援助委員会の審査会（年5回開催）にて、助成内容・金額を決定する。



●療養援助委員会 (所属は2012年3月31日現在)

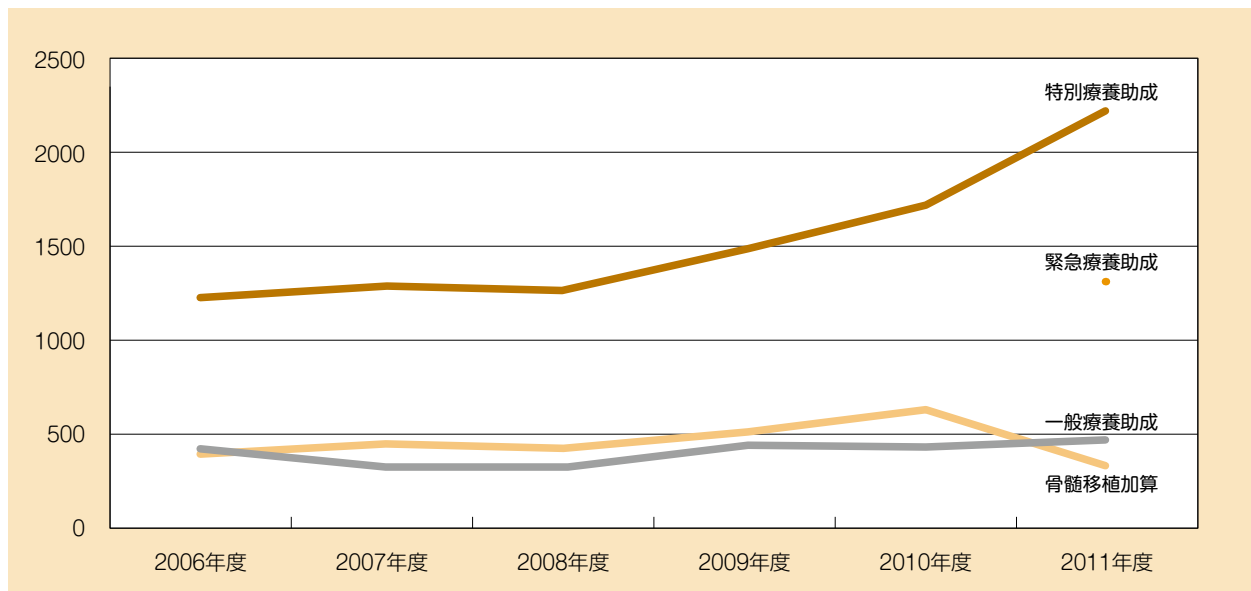
西村 昂三	元聖路加国際病院 小児科
横山 穰太郎	元慶応義塾大学医学部 小児外科
星 順隆	元東京慈恵会医科大学附属病院 輸血部
別所 文雄	杏林大学医学部 小児科
黒田 達夫	慶応義塾大学医学部 小児外科
花田 良二	埼玉県立小児医療センター 血液腫瘍科
前田 美穂	日本医科大学付属病院 小児科

■本年度助成実績

	緊急療養助成	一般療養助成	特別療養助成	骨髄移植加算
申請件数	135件	96件 (6件増)	264件 (66件増)	85件 (23件減)
助成件数	135件	96件 (8件増)	261件 (68件増)	85件 (23件減)
総助成額	13,150,000円	4,800,000円 (400,000円増)	18,830,000円 (1,494,000円増)	3,360,000円 (2,940,000円減)
平均助成額	※一律100,000円 過去に一般療養助成を受給 している場合は50,000円	※一律50,000円	72,145円 (13,355円減)	39,529円 (18,471円減)

※カッコ内は前年比

■助成額の年次推移



3 相談事業及び関連事業

(1) 小児がん相談事業

当会が設立された44年前は小児がんといえば不治の病とされていました。しかし、医療技術の進歩により、現在は小児がんの子どもたちの7割から8割が治るようになってきています。とはいえ、まだ年間約550人の方が亡くなる深刻な病気でもあり、子どもの病死の第1位ともなっています。

子どもががんになったとき、会には相談が多く寄せられます。子どもに代わり治療方針を選択する迷い、患児への告知をどうするか、元気なきょうだいの面倒を誰がみるか、経済的な困難を抱える若い親も珍しくありません。治療中だけではなく、子どもは治療後の人生が長いだけに、治ったあとでも様々な不安を抱えることがあります。また、子どもを亡くしたご家族や、最近では親だけではなく、治療を終えた小児がん経験者や、きょうだいからの相談も寄せられるようになりました。

子どものがんで生じる悩みの一つに、心身が成長する時期に治療を行うことにより生じる晩期合併症（成長障害や不妊、二次がん、こころ等）の問題があります。それらが進学や復学、就職、結婚といった社会生活に影響を与えることがあります。このことは一般の方にはまだ十分に知られておらず、そのために辛い思いをする小児がん経験者や家族も少なくありません。

こうした不安を抱えるご家族や小児がん経験者、また医療関係者や教育保育関係者等からの相談を受け、当会では、1973年に専任のソーシャルワーカーを設置して以来、現在は東京の本部事務所と大阪事務所にて専門のソーシャルワーカーが全国から寄せられる相談をお受けしています。

(2) 小児慢性疾患情報提供事業

小児慢性疾患に罹患している患児およびその家族に対する福祉対策の一層の充実を図ることを目的として「小児慢性特定疾患情報提供事業」として相談業務の一部を行うほか、機関誌「のぞみ」の発行及び、のぞみの誌面にて「小児慢性疾患情報コーナー」を設け、難病の子どもへの支援団体の紹介と宿泊施設の紹介をしています。

■機関誌「のぞみ」情報提供コーナー

号	難病の親の会の紹介	全国の宿泊施設の紹介
165	低フォスファターゼ症の会	熊本地区の宿泊施設 たんぼぼハウス
166	ウイルソン病友の会	熊本地区の宿泊施設 アンリーハウス
167	TSつばさの会	長崎地区の宿泊施設 ペンギンハウス
168	鎖肛の会	福岡地区の宿泊施設 ファミリーハウスわらべ、すこやかハウス、ファミリーハウス「Marian HouseⅢ」

■他の難病支援団体との連携

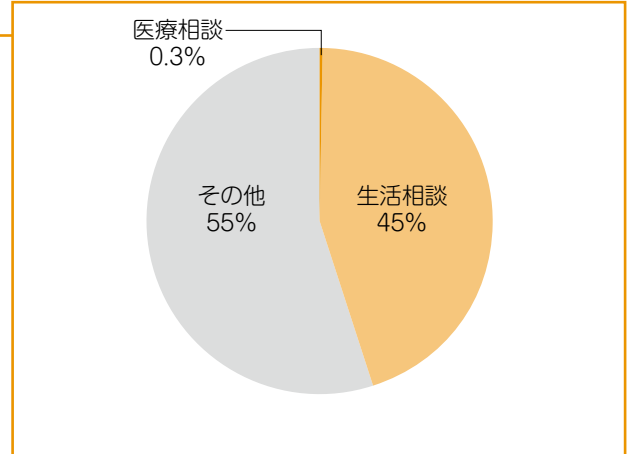
年月日	内容
2011. 9.24～25	JHHHネットワーク会議参加
2011. 11.12	第2回難病・慢性疾患全国フォーラム参加



1. 相談受案件数

(単位：件)

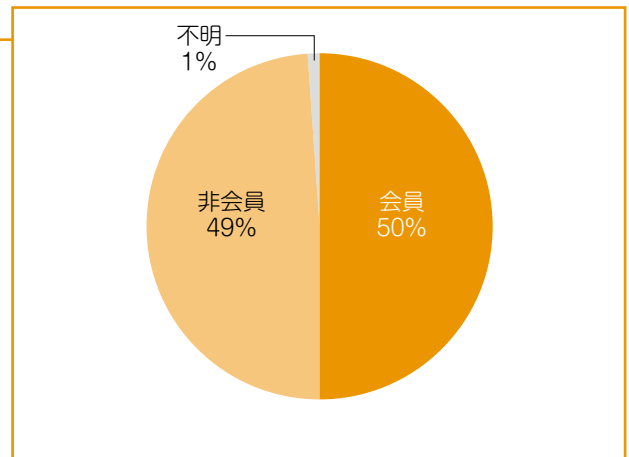
医療相談	92
生活相談	6,613
その他	8,246



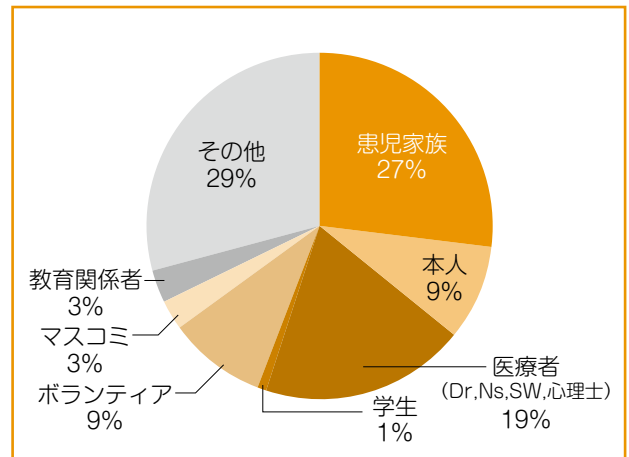
2. 対象別生活相談受案件数

(単位：件)

①会員別内訳	11,318
会員	5,628
非会員	5,505
不明	185



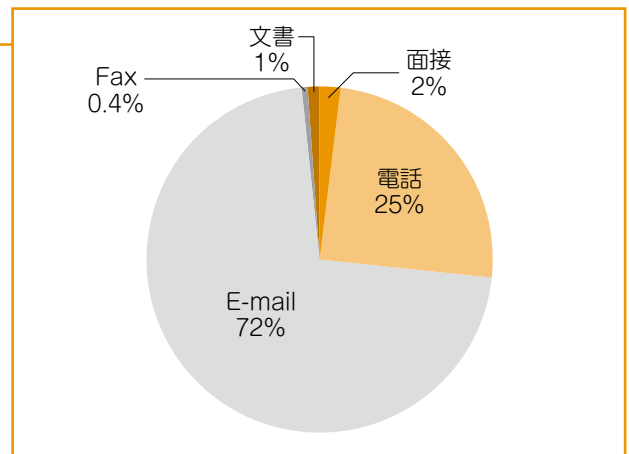
①対象別内訳	11,318
患児家族	3,045
本人	1,021
医療者 (Dr, Ns, SW, 心理士)	2,126
学生	93
ボランティア	1,091
マスコミ	331
教育関係者	317
その他	3,294



3. 手段

(単位：件)

面接	183
電話	2,784
E-mail	8,189
Fax	46
文書	116



(3) 講演会・交流会の開催

同じ疾患を持つ患児家族の交流や勉強会を目的として次のような会を開催しました。

①疾患別の相談会

年月日	内容	講演	参加者	会場
2011. 5. 21	神経芽腫の会	「神経芽腫の最近の知見」 小阪 嘉之 先生 兵庫県立こども病院血液腫瘍科	8名	大阪
7. 23	悪性リンパ腫の会	「小児期若年成人リンパ腫の治療と合併症」 角南 勝介 先生 成田赤十字病院小児科	5名	本部
8. 6	横紋筋肉腫の会	「横紋筋肉腫に立ち向かうJRSGの活動と内外の状況」 森川 康英 先生 国際医療福祉大学病院小児外科	6名	本部
9. 1	脳腫瘍の会	「小児脳腫瘍について」 杉山 一彦 先生 広島大学病院脳神経外科	11名	大阪
10. 29	骨・軟部腫瘍の会	「骨軟部肉腫の診察－日常への復帰－」 比留間 徹 先生 神奈川県立がんセンター骨軟部腫瘍外科	8名	本部

②個別相談会

年月日	内容	講師	参加者	会場
2012. 2. 4	内分泌の個別相談会	依藤 亨 先生 大阪市立総合医療センター小児代謝内分泌内科	5名	大阪
2. 24	こころの個別相談会	大西 秀樹 先生 埼玉医科大学国際医療センター精神腫瘍科	3名	大阪
3. 23	こころの個別相談会	大西 秀樹 先生 埼玉医科大学国際医療センター精神腫瘍科	4名	本部
3. 26	こころの個別相談会	細谷 亮太 先生 聖路加国際病院小児科	1名	本部

(4) 子どもを亡くした家族の会

①子どもを亡くした家族の交流会

子どもを亡くした家族の交流やわかちあいの場の提供を目的として、東京、大阪両事務所にて交流会を年7回開催しました。各回とも、当会ソーシャルワーカーの司会のもと、参加者が体験や近況などを話しあい交流を深めました。

年月日	内容	参加者	会場
2011. 7. 2	家族の会	6名	大阪
7. 9	父親限定の会	7名	本部
8. 25	家族の会	6名	本部
11. 5	母親の会、父親の会を別室にて併行開催	父親 4名 母親 5名	大阪
11. 12	家族の会	5名	本部
12. 3	母親限定の会	6名	大阪
2012. 1. 28	母親の会、父親の会を別室にて併行開催	父親 8名 母親 13名	本部



②短期集中型サポートグループ

子どもを亡くされたことに関する様々な感情の表出や共感の機会の提供を目的として、子どもを亡くされて1年未満の母親を対象にサポートグループを開催しました。

■サポートグループ

本年度は、春と秋にアフラックペアレンツハウス浅草橋にて、冬にアフラックペアツハウス大阪にて計3回のサポートグループを実施しました。各回とも、グループの開催前に参加者との個別の事前面接を行ったうえで、少人数の同じメンバーにて毎週1回原則90分計6回の集まりをもち、各回とも異なるテーマのもとに話し合いを行いました。6回の集まりの後、再び参加者と個別に事後面接を行いました。

各回の参加者は、春のグループ5名、秋のグループ5名、および冬のグループ3名でした。

*ソーシャルワーカー2名が同席

■前年度サポートグループの同窓会

6回のサポートグループ及び事後面接が終了した後は、参加者へのフォローアップの目的もかねて、半年後及び1年後の2回にわたりサポートグループ同窓会と称した集まりをもっています。本年度は、2010年秋に開催したグループの同窓会を2回、2011年春に開催したグループの同窓会を1回行いました。

*ソーシャルワーカー2名が同席

(5) 親の会支援

①親の会支援

全国の病院内や疾病別に発足している小児がん親の会は、子どもが小児がんにかかった親たちが身近に相談できる場所として大変重要です。各会に対して、運営や設立に関する相談に応じるほか、当会に寄贈されたグッズ等を配布し、また、活動資金として20グループに支援金を交付しました。

親の会名	活動場所	支援金額
えくぼ	順天堂大学医学部附属病院	1万円
横浜市大附属病院小児科親子の会 さんふらわ	横浜市立大学附属病院	2万円
ハッピーウィング	富山県	2万円
聖路加国際病院小児科病棟親の会「リンクス」	聖路加国際病院	2万円
長期入院患児と家族を支える親の会 わたぼうしの会	岐阜大学医学部附属病院	3万円
静岡県立子ども病院 ほほえみの会	静岡県立こども病院	3万円
きょうとたんぼぼの会	京都大学医学部附属病院	3万円
ユーイング肉腫の会	全国	3万円
COSMOS会	国立がん研究センター中央病院	3万円
げんきの会	日本大学医学部附属板橋病院	3万円
網膜芽細胞腫の子どもを持つ家族の会 すくすく	全国	3万円
福岡大学病院小児科親の会 みらい	福岡大学病院	3万円
まるつけ会	岐阜市民病院	3万円
肝芽腫の会	全国	3万円
LCH患者会	全国	3万円
東邦大学医療センター大森病院 ひだまりの会	東邦大学医療センター大森病院	3万円
コスモの会	香川医科大学病院	3万円
三色すみれの会	天理よろず相談所病院	3万円
近畿小児脳腫瘍の家族会・経験者グループ Miracle Brain	近畿	3万円
ひだまり	三重大学医学部附属病院	3万円

②親の会連絡会

小児がん親の会が、会の運営や活動を共有しあうことを目的として年1回の集まりを持ち情報交換等を図る場として1997年より「全国小児がん親の会連絡会」を開催しています。

15回目となる本年度は神奈川県伊勢原市の東海大学医学部附属病院を会場に全国から24団体41名の参加がありました。当日は、東海大学医学部附属病院を活動拠点とする「光の会」幹事のもと、同病院再生医療科（小児科）矢部普正先生から「小児血液難病における造血幹細胞移植」と題して、移植医療の概説、その効果、移植後の晩期合併症について、また福島第一原子力発電所事故に関わる放射線被ばくと白血病の発症にも触れたお話がありました。その後、4つのグループに分かれて、親の会の立ち上げのいきさつやその後の運営について、親の会の目的や後継者の問題、医療者との関係などが熱心に話し合われました。



(6) きょうだいの支援

■富士山登山キャンプ

小児がんの子どもや家族を対象としたキャンプやイベントは各地で開催されるようになっている一方で、小児がんの子どものかょうだい向けのイベントは少なく、出会いや交流の場が少ないのが現状です。そこで、当会では2001年より毎日新聞社の支援を受けて小児がん患児のかょうだいのための富士登山を行っています。本年度は、参加者17名とボランティア8名、医師2名、当会ソーシャルワーカー2名の参加でした。2008年より開催している「きょうだいのお話会」も、回を増すごとに参加者の期待度も上がり、貴重な時間を過ごすことができています。

協賛：あいおいニッセイ同和損害保険、財団法人東京メソニック協会

寄贈：プラザスタイル株式会社(思い出カード)、和光堂株式会社(虫除けシートと日焼け止めクリーム)、マムートスポーツグループ株式会社(Tシャツ)

■きょうだいの交流会 てんとうむし

当会では、きょうだい支援の一環として毎年夏休みに合わせて富士山登山を行っており、きょうだいにとって数少ない出会いの場となっています。2007年からは「きょうだいのお話会」が開催され、同じ小児がんの子どものかょうだい同士が、こころにとめている想いを語り合い、分かち合い、同じ立場の人がいるという繋がりや安心感を感じています。その富士山登山参加者の「富士山だけじゃなくもう少し会いたいね」「旅行じゃなくて気軽に参加できたらいいな」という声から、小児がんのかょうだいの交流会を開催いたしました。開催にあたっては、小児がんの子どものかょうだいたちが中心となって企画・運営をし、「てんとうむし」と名付けられました。これはテントウムシ(天道虫)が日本では太陽に向かって飛ぶといわれていること、また、外国では『子どもの守り神』といわれていることから、「子どもたちが守られ、その子の太陽に向かい自由に飛ぶ」という意味を込めています。

当日は高校生から社会人まで9名のかょうだいが参加し、きょうだいの病気を知ったきっかけや治療中のときと今の想いの違いなど日頃の想いを感じ合うなど、充実した時間を過ごしました。

(7) ボランティアの育成・実習生の受け入れ

①遊びと学習のボランティア たんぼぼ

「遊びと学習のボランティア たんぼぼ」とは、当会ソーシャルワーカーが福祉系大学に通う学生に呼びかけ結成されたボランティアグループであり、1992年より現在まで、東京慈恵会医科大学附属病院小児科病棟にボランティアを週1回派遣し、入院児を対象に遊びや学習支援活動を行っています。

本年度は、小児科プレイルームでの遊びの支援が主な活動でした。活動を行う上で必要なボランティアメンバー間のミーティングを6回(隔月)で開催し、活動報告及び連絡ツールとして「たんぼぼ新聞」を4回(6、10、12、2月)発行しました。また、同院のボランティア組織「スマイルボランティア-JIKEI-」の調整会議及び懇親会にも参加しました。

②実習生の受け入れ

小児がんに関する専門家の育成に協力するため、本部事務局にて実習生を受け入れました。

2011年8月30日 ルーテル学院大学4年生(1名)

4 ゴールドリボン推進活動

(1) 小児がん経験者の自立支援助成

小児がんなど難病の子どもは、長い入院生活、また長期にわたる療養生活を強いられます。それに伴い、長期間の学校の欠席、日常生活での感染上の注意や運動制限などのために病気を持たない子どもと同じような日常生活を送ることが困難な場合があり、社会的な自立が難しい場合もあります。

当会では、2006年10月、主に小児がん経験者への支援活動を目的としたゴールドリボン基金を設立し、同基金による自立支援活動の一環として、2008年度から、社会的自立に意欲のある小児がん経験者を経済的に援助し自立を促すことを目的とし、自立に必要な費用の一部を助成する小児がん経験者自立支援助成を開始しました。

本年度は、2010年11月1日～2011年1月15日まで公募を行ったところ、自立を目指す意欲を持った小児がん経験者4名からの応募があり、審査会（2011年3月4日開催）にて書類審査の結果、下記の通り3名に助成しました。

申請者	助成内容	助成額
21歳女性	自動車免許、改造（手動運転）、車椅子作製	50万円
19歳男性	建築に関係した大学への入学金、授業料の一部	50万円
30歳男性	パソコン等購入、中古車購入	50万円

(2) 小児がん経験者の会の活動支援

①小児がん経験者の会リーダーの集い

小児がん経験者の会のリーダー及びこれから会を立ち上げようとしている小児がん経験者たちが、会を運営していくうえでの悩みや課題を一緒に考え共有していくことを目的とし、2003年より「小児がん経験者の会リーダーの集い」を開催しています。

本年度は2011年12月17日にアフラックペアレンツハウス大阪にて開催し、全国から7グループ11名が参加しました。昨年度に引き続き、愛媛地域の会「Purity」が幹事として、準備や当日のプログラム内容の企画を担当し、現状のリーダーの集いの課題から、今後のリーダーの集いのあり方まで幅広く議論が行われ、解決策の糸口を見つけることができました。

②Fellow Tomorrow（フェロー・トゥモロー）への支援

1993年に発足した小児がん経験者の会「Fellow Tomorrow（フェロー・トゥモロー）」の2011年5月19日に開催された総会及び、2011年11月20日開催された定例会に当会ソーシャルワーカー参加し、運営の助言や参加者への支援を行いました。

③WISHへの支援

2000年に発足した東海地域の小児がん経験者の会「WISH」の2011年11月13日（名古屋市）、2011年11月13日（津市）の定例会に当会ソーシャルワーカーが参加し、運営の助言や参加者の支援を行いました。



④活動費の支援

小児がん経験者の会に対して活動費の支援を行っています。今年度は6団体より申請があり、以下の5団体に計23万8000円の活動費の支援を行いました。

団体名	活動場所	支援目的	支援金額
まりも	北海道	北海道内の主要病院にまりもの広告や活動報告の設置。宿泊交流会の開催と参加者への交通費助成のため。	5万円
Fellow Tomorrow	東京	会を多くの人に知ってもらうための資料作成費や通信費、行事にかかる費用として。	5万円
WISH	三重	交通費、会議室代、案内費用など、会の運営、維持、進行を円滑に行うための費用として。	3万8千円
MAKTY	広島	年に3回（8月・12月・3月）の交流会の通信費として。チラシの消耗費。ミニミニ幼稚園交通費一部補助として。	5万円
Smile Days	北九州	スマイルデイズのセルフヘルプグループ活動、講演活動、交流活動等に必要な資金としての運営資金として。	5万円

(3) 国際小児がん親の会連盟 (ICCCPO) への参加と協力

①ICCCPO (The International Confederation of Childhood Cancer Parent Organisations)

アジア分科会、年次総会への参加

2011年6月11～12日に成都（中国）にて開催されたICCCPO アジア分科会に、山下公輔理事長、高橋和子監事および職員2名の計4名が参加しました。また、10月26～30日にオークランド（ニュージーランド）にてSIOP（国際小児がん学会）と同時に開催された第18回ICCCPO年次総会に、理事長、職員1名、及び公募の上決定した小児がん経験者3名（ゴールドリボン基金により派遣）の計5名が参加しました。なお、年次総会にて新たに10団体がICCCPOに加わり、ICCCPO全体の加盟国は、81カ国148団体となりました。

②PHPF (Parents Helping Parents Fund) への協力

発展途上国等のICCCPO年次総会参加を支援するための基金「PHPF」に500ユーロの寄付を行いました。

③WCC (World Child Cancer) への協力

発展途上国への支援活動を展開するICCCPOの関連団体「WCC」に300ユーロの寄付を行いました。

5 ボランティアコーディネーター・ボランティア研修会

(1) ボランティアコーディネーター

当会事業推進のために、東京本部と大阪事務所で延べ363名からボランティア協力をいただきました。

(2) ボランティア研修会

1995年度よりスタートした遊びと学習のボランティア「たんぽぽ」派遣事業の研修会として始まったものですが、現在、初回研修会は当会ボランティアに登録された方に必ず受けていただいています。

年月日	内 容	参加者
2011. 4. 28	ボランティア初回研修会（大阪）	3名
6. 17	たんぽぽボランティア研修会① ・カードゲームの練習 ・バルーンの練習	7名
10. 21	たんぽぽボランティア研修会② 講師：秋山政晴先生 東京慈恵会医科大学小児科	11名
10. 29	ボランティア初回研修会	2名



6 総合支援施設の運営事業

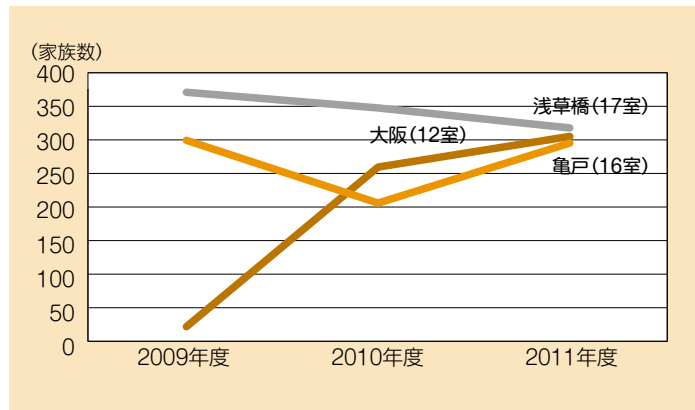
(1) アフラックペアレンツハウスの運営事業

アフラックペアレンツハウスは小児がんなど難病の患児家族のための日本で最初に建設された総合支援センターです。遠隔地から治療に来ている付き添い家族のための宿泊施設としてだけでなく、治療中、治療後の患児家族が抱える様々な問題に対して支援をしています。亀戸（東京都江東区亀戸、2001年2月開設）、浅草橋（東京都台東区浅草橋、2004年12月開設）、大阪（大阪府大阪市中央区、2010年1月開設）の3施設は、いずれも開設以来順調に運営しています。運営費用については、アフラック並びに全国の代理店（アソシエイツ）ほかの支援を得ています。

■ 利用状況

延べ利用家族数（2011年4月1日～2012年3月31日）

亀戸（16室）	296家族
浅草橋（17室）	319家族
大阪（12室）	305家族



(2) その他の宿泊施設の運営

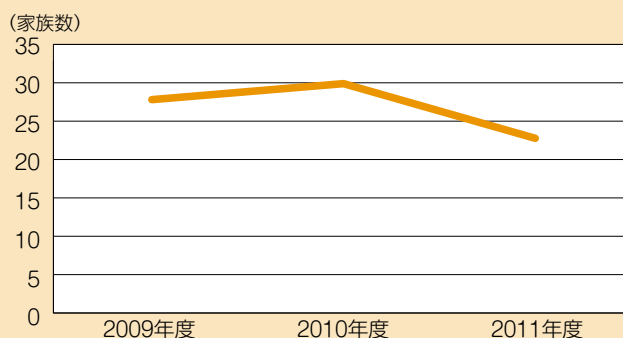
①あかつきハウス

1995年にオープンした「あかつきハウス」は、東京都中央区内の病院で治療をされる患児とその家族のための宿泊施設です。あかつき公園に隣接する区立住宅「あかつき住宅」の2戸を「あかつきハウス」として借り受け、当会が管理・運営しています。

室内は6畳和室と台所、トイレ、浴室があり、家具や洗濯機、食器など日常生活に必要な備品が完備されています。利用料は1部屋2000円（宿泊代と維持管理費として）です。

■利用状況

延べ利用家族数(2011年4月1日~2012年3月31日)
23家族

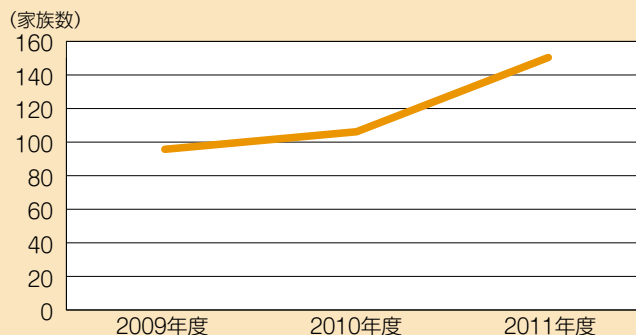


②三重ファミリールーム

三重ファミリールームは、三重大学医学部附属病院、および近郊の病院に入院中あるいは小児科外来等に通院中の患児とその家族のための宿泊施設です。三重ファミリールーム運営委員会（三重大学附属病院小児科内）と当会で管理・運営しています。2階建ての建物に和室4室があり、日常生活に必要な電化製品や備品等が完備され、共同スペースとして、プレイルーム（兼談話室）、バルコニー・物干し台があります。利用料は1泊1,000円、昼間の部屋風呂の利用は300円です。

■利用状況

延べ利用家族数(2011年4月1日~2012年3月31日)
151家族



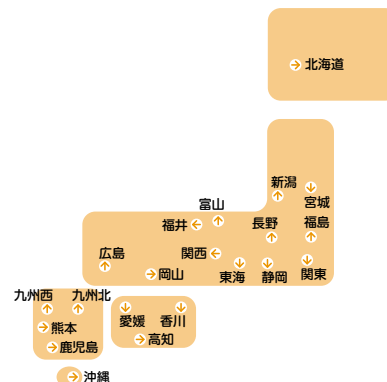


7 小児がん対策に関する意見交換会の開催

平成18年の「がん対策基本法」策定（平成19年施行）を受けて設置されたがん対策推進協議会のもとに、平成22年12月10日に小児がん専門委員会が設置され、平成24年3月に発表されたがん対策基本計画案には小児がん対策が入り、平成24年度には小児がん対策として4億円が予算化されることとなりました。当会でも、より質の高い小児がん対策や患者家族への支援制度の実現に向けて、全国各地で小児がん患者家族が直面している困難や制度上の課題について共有し、当会としてどのように取り組んでいくべきか議論を重ねています。本年度は、小児がん専門委員会の委員だった檜山英三先生の要請により、6月と8月に当会支部幹事を中心に専門委員会で話し合われた内容について話し合いをし、意見書を小児がん専門委員会を通じてがん対策推進協議会へ提出いたしました。

8 支部活動

当会には全国に21の支部があります（2012年3月31日現在）。各地域の会員ボランティアにより組織され、地元の医療関係者等の協力を得ながら、各地のニーズにあわせた相談会や交流会などを開催し、患児家族と医療関係者のコミュニケーションを深めるとともに、患児家族のよりよい療養生活の実現を目指して活動しています。



(1) 講演会、交流会、相談会、総会等

開催月	支部	内 容
4月	沖縄	琉球大学病院親の会訪問
5月	香川	支部総会、講演会「小児がん経験者のQOLと小児がん患者家族への支援について」
	関東	交流会
	富山	総会、交流会、講演「小児がんのトータルケアを目指して」、体験発表「闘病生活を通して～父親の立場から～」
	広島	支部創立10周年記念講演会「小児がん治療の現状とこれから」「小児がんの子どもたちのトータルケア」、総会、交流会、真珠の会（子どもを亡くした親の会）、MAKTY（経験者の会）
6月	福井	定期総会、「のぞみ小児がんセミナー2011」開催、講演「友達からの遺言」、朗読「子どもの心に寄り添って 緩和ケアのガイドライン」、分科会①経験者と家族の交流会②子どもを亡くした家族の交流会③「すぐに役立つ話し方教室」
	関東	講演会（千葉）
	新潟	青空の会（子どもを亡くした親の会）
7月	北海道	はるにれの会（子どもを亡くした親の会）
	関西	「のぞみトークきんき2011」開催「小児がん経験者の成長を応援する～Post Traumatic Growthもふくめて」
	九州北	支部交流会、講演会「子どもが子どもらしく～CL Sの活動」座談会「小児がん患児の将来の自立のために患者家族はどのように接していくべきか」
	東海	虹の会（子どもを亡くした親の会）
	新潟	支部総会、講演会
8月	沖縄	琉球大学病院親の会訪問
	香川	バーベキュー大会、経験者の会
	北海道	患者と家族の全道集会、交流会
9月	福井	小児がんピアカウンセリング交流会
	鹿児島	講演会「小児がんトータルケア」「小児がんの患者を支えていくために」、経験者との交流会
	熊本	講演会「小児がんの長期フォローアップ～今そしてこれから～」
	熊本	小児がんでお子さんを亡くされたご家族のお話会
	静岡	子どもを亡くした親の会
	福井・富山	北陸交流会
	福島	総会、講演会「小児がんの長期フォローアップ」「福島における放射線汚染について」
	北海道	講演会「小児がん経験者これからのを考える～学校・就職、そして長期フォローアップ」
10月	関東	交流会
	沖縄	医療講演会
	香川	コスモの会
	鹿児島	講演会（屋久島）「小児がんトータルケア」
関東	講演会「高次脳機能障害」（埼玉）	



開催月	支部	内 容
10月	九州北	日韓交流（訪韓）
	静岡	親の会交流会
11月	香川	コスモの会講演会・交流会
	関東	山梨交流会
	新潟	青空の会（子どもを亡くした親の会）
	北海道	はるにれの会（子どもを亡くした親の会）
12月	香川	支部交流会
	鹿児島	子どもを亡くした親の会
	関西	母親の会
	富山	「虹のかけはし」(子どもを亡くした家族の交流会)
	福井	小児がんピアカウンセリング交流会
	静岡	親の会交流会
1月	鹿児島	経験者の会
	九州北	講演「小児血液難病における造血幹細胞移植とQOL」、座談会「小児がん経験者と語ろう」、個別相談会
	関東	交流会
2月	愛媛	支部総会
	富山	意見交換会（医師、医学生、看護師、経験者、家族）
	福井	小児がんピアカウンセリング交流会
3月	愛媛	特別講演「小児がんの子どもと家族をとりまくトータルケア」、小児がんで子どもを亡くしたご家族の交流会
	関西	近畿小児がん研究会との合同シンポジウム、テーマ「AYA世代がん患者特有の問題を考える」
	関東	講演会「小児の造血幹細胞移植の現状について」
	福島	子どもを亡くした家族の会交流会

(2) イベント・募金活動等

開催月	支部	内 容
7月	富山	チャリティーバーベキュー
8月	関西	京セラドーム野球観戦（オリックス大引選手の招待）
	関東	エーザイ工場見学
9月	富山	野球観戦 富山サンダーバース
	福島	リレーフォーライフin福島 参加
10月	愛媛	リレーフォーライフin愛媛 参加
	愛媛	チャリティーコンサートで募金活動
11月	富山	サッカー観戦 主催：富山コミュニケーションズ、富山県共同募金会
3月	関東	エーザイ工場見学

(3) 院内ボランティア等

開催月	支部	内 容
4月	富山	バルーンショー
	宮城	クリニックラウン
7月	宮城	クリニックラウン
	富山	人形劇
10月	北海道	ジャグリングショー（北大病院）
12月	香川	クリスマス会（香川小児病院） 病院職員と一緒に
	鹿児島	クリスマス会（鹿児島大学病院、市立病院、宮崎大学病院）
	東海	三重大、名古屋医療センター、岐阜市民病院、愛知医科大学、名古屋大学、名古屋市民大学
	富山	クリスマスプレゼント配布
	新潟	クリスマス会（新潟がんセンター）
	広島	クリスマスプレゼント配布
	福井	クリスマス会（福井大学病院）
	福島	クリスマス会
	北海道	クリスマス会（北大病院）
	宮城	クリスマスプレゼント配布
3月	東海	三重大学訪問



9 小児がん児童・家族への慰問活動事業

(1) クラウドクター事業

2000年度から日本財団の助成を受けて行っている全国の小児病棟の慰問事業です。人気キャラクターの着ぐるみショーや歌のお兄さんコンサート、人形劇など、会場に合わせ企画し、地域や会員や病院ボランティア、親の会の協力をを受けて行っています。子どもたちからは「思い出すと楽しい気持ちになる」といった声がアンケートにも寄せられています。



■本年度訪問先（事業開始からの累計95ヶ所）

訪問日	都道府県	病院名	内容	参加人数
2011. 7.27	徳島	徳島大学医学部附属病院	アンパンマンショー	約40名
9.20	佐賀	佐賀大学医学部附属病院	アンパンマンショー	約60名
9.21	大分	大分大学医学部附属病院	アンパンマンショー	約40名
10. 4	滋賀	滋賀医科大学付属病院	アンパンマンショー	約46名
10.17	神奈川	聖マリアンナ医科大学病院	人形劇（ブーク）	約40名
10.28	東京	日本赤十字社医療センター	人形劇（やまいも）	約20名
11.16	千葉	松戸市立病院	歌のお兄さん	約50名
12.20	山口	山口大学医学部附属病院	アンパンマンショー	約262名
2012. 1.30	愛知	名古屋医療センター	アンパンマンショー	約30名
3.19	東京	帝京大学医学部附属病院	歌のお兄さん	約40名

(2) 図書の寄贈

本年度も日本児童文芸家協会のご協力を得て、全国の病院に児童用図書を配布することができました。その他に一般の方々から寄贈された図書は、浅草橋、亀戸、大阪のペアレンツハウスの利用者向け図書コーナーなどで活用されています。

(3) その他の寄贈

本年度も様々な企業・団体・個人の方々から子どもたちのためにと玩具やグッズ、カード、文具、タオル等沢山のプレゼントを寄贈していただきました。

これらの寄贈品は、ボランティアの方々や梱包・発送作業をしていただき、全国の親の会、支部を通じて子どもたちに届けることができました。

10 小児がんの子どもたちの絵画展開催

当会では、ひとりでも多くの方に小児がんのことを知っていただくことを目的に、小児がんの子どもたちが描いた絵を募集し、1998年度より絵画展を開催しています。本年度は「第53回日本小児血液・がん学会学術集会、第9回日本小児がん看護学会、第16回がんの子供を守る会公開シンポジウム」（2011年11月25日～27日 前橋商工会議所）において40作品を展示することができました。絵画展会場には3日間で900名を超える方々が来場されました。来場者からのアンケートでは、「つらい時期を乗り越え今あるご両親の姿が伝わってきました」「涙が止められません。悲しいけれど温かい涙が出ます」「自分の子どもに近い子どもたちが多かったので考えてしまいました」等々、多くの感想が寄せられ、啓発活動としての大きな成果を得ることができました。





11 ソーシャルワーカーの研修事業

(1) オンコロジーソーシャルワーク研究会の支援

全国のがん医療に携わるソーシャルワーカーの研修のため、オンコロジーソーシャルワーク研究会の事務局を担当し、自主企画を第60回日本医療社会事業全国大会・第32回日本医療社会事業学会（大分県）内で企画しました。当日は65名以上の参加があり、がん医療のソーシャルワークをソーシャルワーカー同士で共有し確認しあえる機会を提供しました。

(2) 小児がん関連、社会福祉関係の研修会への参加

[学会・研究会参加]

■演題発表

年月日	学会・研究会名称	発表内容
2011. 5. 28	第60回日本医療社会事業全国大会・第32回日本医療社会事業学会自主企画「がんとソーシャルワーク」	「患者会などの当事者グループとソーシャルワーカーの距離」
6. 12	ICCCPO アジア分科会	「－ Major Activities and Services for the last 43 years – CCAJ」
7. 15	第44回日本整形外科学会 骨軟部腫瘍学術集会 シンポジウム	「財団法人がんの子供を守る会での骨軟部腫瘍患者家族支援」
7. 1	LPC国際フォーラム2011	「小児がんにおけるサバイバーシップ」
9. 23	日本緩和医療薬学会年会市民公開講座	「－子どもががんになったとき－ 成長していく子どもとその家族へのサポート」
8. 6	小児がん脳腫瘍全国大会 厚生労働省第三次対がん総合戦略研究タウンミーティング	「小児がん対策への患者家族の要望 －小児がん対策に関する意見交換会から－」
9. 3	第24回日本サイコオンコロジー学会	「経済的支援からみえる小児がん患児家族の現況」
10. 2	NPO法人SUCCESS小児がん講演会	「がんの子どもを守る社会制度とソーシャルワーカーの働き」
10.26-30	SIOP 及び ICCCP 年次総会	「GUIDELINE FOR PEDIATRIC PALLIATIVE CARE: MULTIDISCIPLINARY APPROACH IN PEDIATRIC ONCOLOGY」
11.23	NPO法人HOPEプロジェクト「北欧に見る医療システムと社会保障～治療を続けながら働くために～」	「小児がん経験者の雇用のいま、これから」
11.27	第53回日本小児血液・がん学会学術集会・第9回日本小児がん看護学会・第16回財団法人がんの子供を守る会公開シンポジウム	「小児慢性特定疾患治療研究事業の現況と課題 －医師へのアンケートより－」
12.23	厚生労働省科学研究真部班公開シンポジウム	「就労経験のある小児がん経験者へのヒアリング調査報告2」
2012. 2. 12	全国病弱児教育研究会	「がんの子供を守る会に寄せられる相談から～成人した元患者から病院内教育の意味・意義について学びあう～」
3. 17	第3回患者と医療の架け橋患者団体とともに	「私たちができること～がんの子供を守る会の活動から～」

■参加

年月日	学会・研究会	
2011.10. 1	中部小児がんトータルケア研究会	栄ガスビル
10.22	関東脳腫瘍研究会	御殿山ヒルズ
10.27-29	第49回癌治療学会	名古屋国際会議場

12 その他の事業

(1) スマートムンストーンキャンプへの協力

2011年7月23日から25日まで山梨県北杜市清里のキープ自然学校で行われた第14回スマートムンストーンキャンプについて、事務局として準備段階から運営に協力するとともに、職員1名がキャンプに参加しました。

(2) そらぶちキッズキャンプへの協力

「そらぶちキッズキャンプ」は、病気とたたかう子どもたちのため特別に配慮された常設のキャンプ場を北海道の豊かな自然の中に作るための活動をしています。2004年から、実現に向け夏と冬にプレキャンプを実施しています。

当会では、「そらぶちキッズキャンプ」の情報を患児家族にお伝えするとともに、冬のプレキャンプ(2012年2月10日～13日)で参加者募集に協力しました。

(3) 第16回財団法人がんと子供を守る会公開シンポジウム

第53回日本小児血液・がん学会学術集会・第9回日本小児がん看護学会の協力を得て、群馬県民会館ベシア文化ホール、前橋商工会議所(群馬県)において、第16回がんと子供を守る会公開シンポジウムを開催いたしました。

■プログラム

2011.11.27	合同シンポジウム(公開) 「子どもの学ぶ権利の保障ー病院と学校をつなぐ架け橋をめざしてー」
11.25-27	特別企画 小児がんの子どもたちの絵画展
11.26	特別企画 チャリティマラソン&ウォーキング



広報・募金活動

(1) ブース出展

医療・福祉関係の学会等の会場にて、パネル展示や発行資料の紹介、広報物の配布等により、当会への認知向上や理解を深めてもらう取り組みを実施しました。

(2) ゴールドリボングッズによる啓発活動

小児がんの世界共通のシンボルマークであるゴールドリボンのアクセサリーなどを作成し、小児がんの啓発を兼ね、ゴールドリボン基金へ寄付された方へ贈呈しました。

(3) チャリティーイベント等での募金ブース出展

小児がんの子どもたちへの支援を目的にした各種チャリティーイベント会場にて、来場された一般の方々に、小児がんの現状や当会の活動等の周知活動や募金活動を実施しました。

(4) 常設募金箱の設置

店舗のレジ横などに設置できるオリジナル募金箱を作成し、支援者の方々のご協力のもと、広く募金活動を展開することができました。



庶務事項

(1) 理事会・評議員会の開催

■理事会

年月日	議案	場所
2011. 4. 26	1 公益財団法人がんの子どもを守る会定款の件 2 東日本大震災で被災された小児がん患者家族に対する緊急対策の件	本部
6. 6	1 平成22年度事業報告及び収支決算の件 2 公益財団移行の件	//
7. 7	1 理事長等の互選の件 2 理事の再任の件 3 評議員の再任の件 4 公益法人への移行の件	//
9. 8	1 評議員候補の推薦の件 2 公益財団法人がんの子どもを守る会定款の件 3 研究助成事業の課題の件	//
10. 5	1 公益財団法人がんの子どもを守る会定款の件 2 支部の件 3 評議員推薦の件 4 小児がん研究奨励賞の件	//
11. 7	1 公益財団法人がんの子どもを守る会定款の件 2 規程のの制定の件 3 評議員選定委員会（最初の評議員決定者）の件 4 公益財団認定後の支部経理事務の取扱いの件	//
12. 2	1 公益財団法人 認定申請及び添付資料の件 2 寄付金等取扱規程の件 3 会員の関する規程の件 4 支部に関する規程の件	//
2012. 1. 18	1 公益財団法人がんの子どもを守る会顧問及び相談役規程の件 2 公益財団法人への移行後の委員会設置の件 3 理事の改選の件	//
2. 14	1 理事の改選の件 2 平成24年度事業 基本方針の件 3 各委員会規程の改正の件 4 支部幹事委嘱の件 5 公益財団法人がんの子どもを守る会 定款一部修正の件	//
3. 22	1 2012年度事業計画の件 2 2012年度収支予算の件 3 財団法人がんの子供を守る会組織及び事務処理規程の件 4 平成24年度年次大会の件	//



評議員会

年月日	議案	場所
2011. 4. 22	1 平成23年度事業計画及び予算の件 2 公益財団法人移行の件	本部
6.12	1 平成22年度事業報告及び収支決算書の件	砂防会館
7.26	1 理事及び監事の再任の件 2 公益財団法人がんの子どもを守る会定款の件	本部
9. 2	1 評議員候補の推薦の件	//
10. 4	1 公益財団法人がんの子どもを守る会定款の件	//
2012. 3. 29	1 2012年度事業計画の件 2 2012年度収支予算の件	//

(2) 2011年度定期総会開催

2011年6月12日、砂防会館（東京都千代田区）にて定期総会を開催しました。

総会	1 2011年度事業報告及び決算 2 2012年度事業計画及び予算報告
講演会	『診断時から始まる緩和ケア』 天野 功二 先生（聖隷三方原病院 臨床検査科） 『小児がん患者と家族および子育て世代のがん患者と家族の支援』 真部 淳 先生（聖路加国際病院 小児科）
分科会	1 個別相談会 2 晩期合併症 3 保育・教育・社会的自立 4 子どもを亡くした両親のために 5 小児がん経験者 6 きょうだい 7 ボランティア・社会活動

調査研究委託

本年度の当会会員を対象にした調査研究の申請は6件あり、調査研究委員会にて審議ののち3件について被調査者を紹介しました。

研究名称	協力内容
厚生労働科学研究費補助金（第3次がん総合戦略研究事業） 「がん対策推進基本計画とがん診療連携拠点病院の小児がん診療体制への適応に関する研究」 原 純一 大阪市立総合医療センター 小児血液腫瘍科	当会会員実態調査結果の一部情報提供
「患者・家族・国民の視点に立った自立支援型がん情報の普及のあり方に関する研究」 石田 也寸志 聖路加国際病院 小児科	当会各支部代表者と小児がん経験者の会代表者に調査用紙を送付し、任意に協力を依頼
「小児がん長期ケア事業（シームレスな地域連携医療・どこでもMY病院構想による小児がん患者の生涯にわたるQOL向上に向けた実証事業）」 中川原 章 千葉県がんセンター	当会各支部代表、小児がん親の会代表者、小児がん経験者の会代表者に調査用紙を送付し任意に協力を依頼

研究協力

研究名称	協力内容
「初発の頭蓋内原発胚細胞腫に対する放射線・化学療法第Ⅱ層臨床試験」 松谷 雅生 埼玉医科大学国際医療センター 脳・脊髄腫瘍科	実行委員会委員
「成育医療的視点での家族支援に向けた包括的調査による小児脳腫瘍患児・家族の実態解明」 上別府 圭子 東京大学大学院医学系研究科家族看護学分野	共同研究者
「がん診療におけるチャイルドサポート」(厚生労働科学研究費がん臨床研究事業：小澤班) 小澤 美和 聖路加国際病院小児科	共同研究者

専門誌等への投稿

誌名	論文名など
小児科臨床ピクシス25 中山書店	「小児慢性疾患のサポート」 片山 麻子 当会ソーシャルワーカー
よくわかる「小児がん経験者のために」 医薬ジャーナル社	「支援団体」「支援制度」 樋口 明子 当会ソーシャルワーカー
チャイルドヘルス 診断と治療社	「小児がん患児家族のよりよい生活をめざして」 横川 めぐみ 当会ソーシャルワーカー
保健の科学 第53巻8号 杏林出版	「成人した小児がん経験者と家族が体験していること」 樋口 明子 当会ソーシャルワーカー
小児外科 Vol.44 No.2 東京医学社	「兄弟、姉妹を失った子どもを支える」 樋口 明子 当会ソーシャルワーカー



授業などの講師

小児がん及び当会の活動について講演など、当会会員や関係者の協力を得ながら実施しました。

年月日	テーマ・対象	場所	参加者
2011. 4. 21	アフラックペアレンツハウスの運営について	メルパルク名古屋	約250名
5. 12	アフラックペアレンツハウスの運営について	サンフロントビル	約150名
6. 29	プラザスタイルカンパニー青山本社社員	プラザスタイルカンパニー青山本社	8名
6. 29	大正大学社会福祉学部3年次	大正大学	15名
7. 7	エーザイ株式会社美里工場職員	エーザイ株式会社美里工場	約70名
11. 13	とだわらびたんぼぼの会講演会	戸田市保健福祉センター	約25名
11. 18	小児慢性疾患児のつどい	松戸保健所	約20名
2012. 1. 7	病弱教育セミナー2012	国立オリンピック記念青少年総合センター	約40名
1. 17	エーザイ株式会社美里工場職員	エーザイ株式会社美里工場	約100名
2. 3	お茶の水女子大学附属中学校2年生	アフラックペアレンツハウス亀戸	8名
2. 7	東京有明医療大学看護学科2年生	東京有明医療大学	59名
2. 27	長期療養のお子さんのための相談会	山形県最上保健所	5名
3. 6	山手学院中学1年生	山手学院	193名

取材

各メディアから小児がんに関することや当会についての取材を受けるとともに、会員等に対する取材時にも当会ソーシャルワーカーが同席しました。

招待

各種イベント主催者等から小児がんの子どもと家族に対する招待を受け、会員等へご案内しました。

財団法人 がんの子供を守る会 2011年度事業報告書

2011年4月1日～2012年3月31日

2012年6月15日 発行

公益財団法人 がんの子どもを守る会
(旧：財団法人 がんの子供を守る会)

〒111-0053 東京都台東区浅草橋1-3-12
TEL 03-5825-6311(代表)



公益財団法人 **がんの子どもを守る会**

Children's Cancer Association of Japan

〒111-0053 東京都台東区浅草橋1-3-12

電話:03-5825-6311(代表)

<http://www.ccaj-found.or.jp/>

がんの子どもを守る会

検 索

